

主な構成品



● pHセンサ本体



● 受信機／中継機



● CDROM(専用ソフトウェア)

別途ご用意していただくもの

- 投与管(塩化ビニル管など)
- 汎用パソコン
- WiFi環境
- 工具(ドライバー)など



ソフトウェア動作環境

OS	Windows8.1以降(但し、マイクロソフト社のサポートが受けられるもの)
ランタイム	.NET Framework4.0 Microsoft Visual C++2010 再頒布可能パッケージ
CPU/メモリー	特に制限なし OS、ランタイムが快適に動作する環境を推奨
画面サイズ	1024×768以上を推奨
インターネット接続	デバイスドライバー、ランタイムのインストールにて使用。 (必須ではない)

使用上の注意

【一般的注意】

- 1 本製品は測定値の解釈に注意を要すること等から、事前に、本製品の使用に関して、製造販売業者から十分な教育を受けることが望ましい。
- 2 本機器は性能・効果で定められた目的にのみ使用すること。
- 3 本機器は定められた使用方法を順守すること。
- 4 停電になった場合には、なるべく早期に復旧させること。

【使用者に対する注意】

- 1 専用回収機は強力な磁石を使用しているため、ペースメーカー使用者は専用回収機に触れないこと。
- 2 専用回収機には磁気製品(磁気カード等)を近づけないこと。

【牛に対する注意】

- 1 本機器は10ヶ月齢以上の牛に使用すること。
- 2 pHセンサのルーメン内への投入及び回収は、牛を適切に保定して実施し、牛が騒ぐ場合は作業を中止すること。

その他注意事項については添付文書を参照。

新しいルーメンモニタリングデバイス

牛に負担をかけずに
胃内pHを測定



動物用 管理医療機器

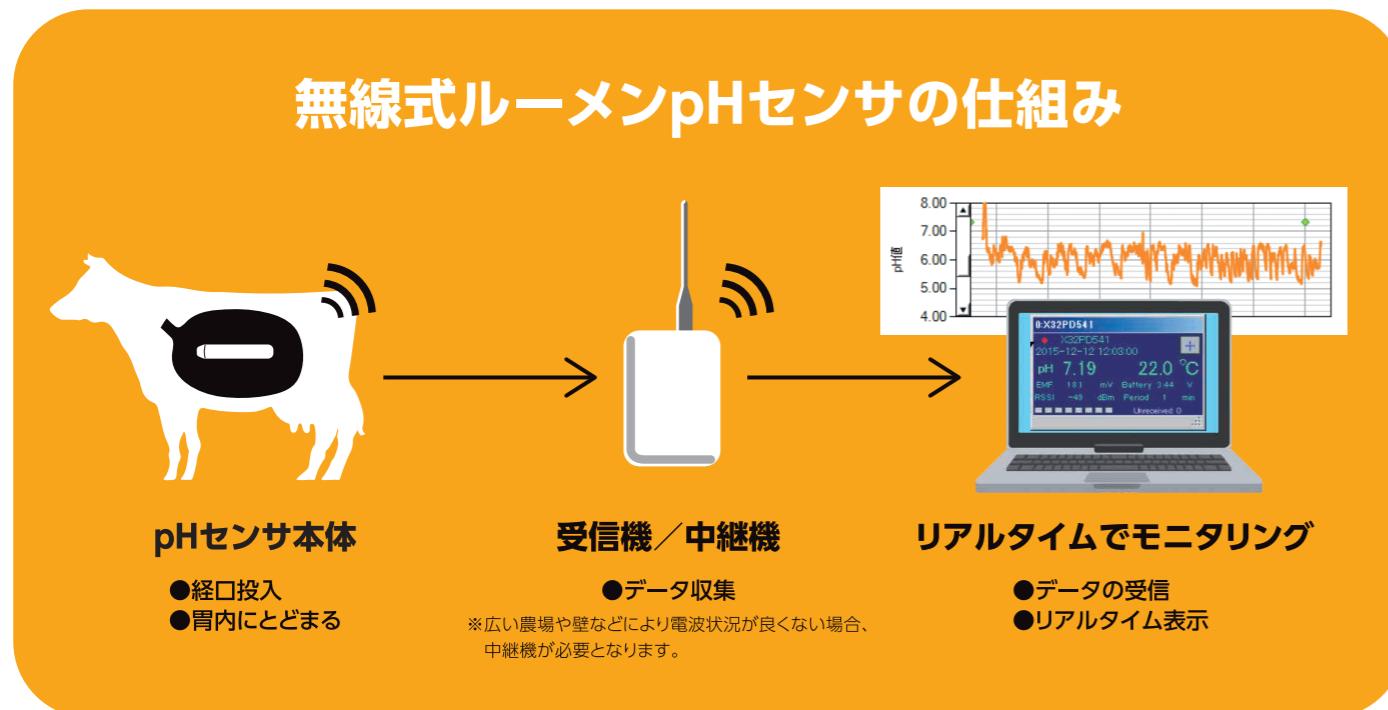
無線式ルーメンpHセンサ

Rumen pH Sensor



新しいルーメンモニタリングデバイス

無線式ルーメンpHセンサは、胃内pHを牛に負担をかけずにリアルタイムで測定できる新しいルーメンのモニタリング方法です。



使用方法概要

※本ページでは概要を示しております。より詳細な手順は、添付文書、スタートアップマニュアルをご確認ください。

1



パソコンの設定、受信機および中継器の設置

パソコンに、データ受信・分析ソフトをインストールし、受信機および中継機の設置、設定を行います。

※受信機および中継機の設置数は、pHセンサの数や牛舎構造等により変わります。

2



pHセンサの登録

投入するpHセンサおよび個体情報を、データ受信ソフトへ登録を行います。

3



pHセンサの準備

回収チェーンを装着し、センサのスイッチをオンにします。作動が開始すると1分以内に内部が発光します。確認できたら白いキャップをしっかり取り付けてください。

※この時点で、pH値・温度がデータ受信ソフトに送信されていることを確認してください。

4

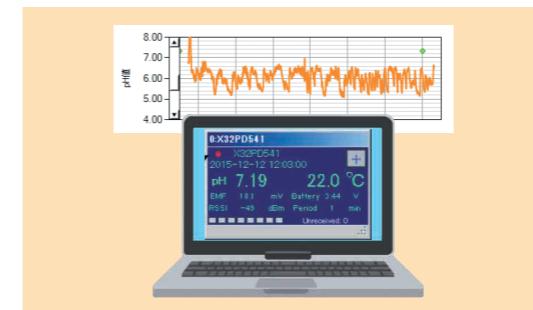


pHセンサの投与

牛を保定し、塩化ビニル管などの保護管を使いpHセンサを口から胃内に投入します。

※強引な手技や落下などによりpHセンサに衝撃を加えてしまった場合は点検を受けてください。

5



測定&モニター

pH値および温度がデータ受信ソフトに送信されます。

本製品を投入した場合、第二胃に留置されることがあります、その場合も間接的に第一胃内pHに関して知見を得られることが確認されております。(詳細は添付文書参照)